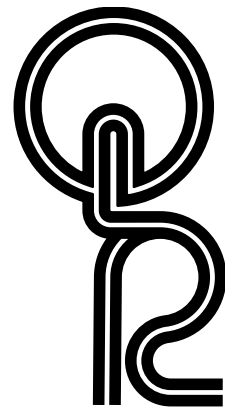


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 12 No.1, 2005



タイ南部バンガー Phanga 湾のカルスト地域にみられるノッチ。高海水準時にノッチが形成され、その後鍾乳石が現海水準レベルまで発達した(2004.12.23久保純子撮影)。12月26日スマトラ沖地震による津波到達域。

Vol. 12 No. 1

February 1, 2005

2005年合同大会情報・・・・・・・・・・ 2	債権者集会メモ・・・・・・・・・・ 11
シンポジウムの案内・・・・・・・・・・ 8	被害学会連絡協議会について・・・・ 12
企画展・講演会の案内・・・・・・・・・・ 9	第四紀学専門委員会議事録・・・・ 12
紙碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10	幹事会議事録・・・・・・・・・・ 13
幹事会からのお知らせ・・・・・・・・ 10	会員消息・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

地球惑星科学関連学会2005年合同大会のお知らせ

地球惑星科学合同大会運営機構

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース No. 31 (2004年12月)より

§ 1 合同大会案内サマリー

会期：2005年5月22日(日) - 26日(木)

(5月22日 特別公開セッション)

会場：幕張メッセ 国際会議場

各種受付開始日・締切日：

	受付開始日	受付締切日
予稿集原稿投稿	2005/1/11 (火)	早期投稿締切 2005/2/14(月) 17:00
		通常投稿最終締切 2005/2/21(月) 12:00
大会参加登録 事前申込		最終締切 2005/4/13(水) 12:00

** 最終締切以降の参加お申し込みは、当日総合受付にてお願いします。

各種料金：

予稿集原稿投稿

早期投稿	2005/2/14 17:00まで	1,500円
通常投稿	2005/2/21 12:00まで	3,000円
図掲載	Webアップロード	500円
	郵送	1,000円

** 投稿料金は、新規投稿を終えた時点でお支払いいただくことになりました。その後内容を変更されても料金は変わりません。

** 図の掲載は希望者のみで、新規投稿料に計算されます。

事前参加登録申込

全日程券	一般 11,000円	学生 5,500円
24時間券	一般 6,000円	学生 3,000円

当日参加登録申込

全日程券	一般 13,000円	学生 7,000円
24時間券	一般 7,000円	学生 4,000円

** 学部生および70歳以上の方は、投稿の有無に関わらず参加登録が無料となります。

お支払方法：

2005年大会から個人によるお支払は、予稿集原稿投稿・事前参加登録と同時に、オンラインシステムによるクレジットカードでお支払いいただくことになりました。

内容に従って、大会ホームページより支払をお願いします。(銀行振込・郵便振替は廃止させていただきます)

(ご注意)

** 最終締切以降の参加登録お申し込みは大会当日払いとなります。事前申込は4月13日12:00までにお済ませ下さい。

** 支払方法の変更により、請求書の送付はありません。請求書の必要な場合は、4月13日までに事務局へご連絡ください。(領収書はプログラム等と一緒に送付いたします)

** 「公費払」など登録者以外の方が支払う場合は、大会ホームページの「決済方法登録画面」で「指定機関払登録」を行って下さい。

ホームページに入る前に、支払責任者(運営機構からの請求先)の確認をお願いします。後日請求書を送付しますので銀行振り込みをお願いします。機関毎にまとめて請求書が必要な場合は3月20日までに事務局へご連絡ください。ただしこの場合、手数料としてお一人につき2,000円追加して請求させていただきます。

大会ホームページ：

2005年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

合同大会ホームページ

<http://www.epsu.jp/jmoo2005/>

詳しくは上記のホームページを是非ご覧下さい。変更内容の情報は随時更新します。

お問い合わせ先：

(問い合わせ先一覧は大会ホームページに掲載されています)

各種登録システムサポート sys@epsu.jp
「登録ページにアクセスできない」「文字入力できない」「確認メールが来ない」etc...

個人情報登録・参加登録 reg@epsu.jp
「ID & パスワード照会」「ID削除したいとき」「参加登録変更、取消(要受付期間確認)」etc...

セッション・予稿集原稿投稿 abs@epsu.jp
(但し、システムサポートは)

会合の申込 meet@epsu.jp

上記以外大会全般
(特別公開セッション, 展示, 予稿集バックナンバー請求等)

合同大会運営機構 事務局
〒133-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学理学部新1号館 719室
Email: office@epsu.jp
Fax: 03-5800-6839

§ 2 セッション案内

2005年合同大会では, 以下の104セッション(企画を除く)が開催されることになりました。各セッションの詳細についてのお問合せは合同大会ホームページ上に掲載している「セッション一覧」をご参照ください。

講演要旨(予稿集原稿)の投稿について
講演要旨の投稿は1/11 ~ 2/21の期間中に合同大会ホームページ上にて行って下さい。

プログラム編集作業について
プログラム編集作業は2月中旬から下旬にかけて行います。この期間中, 代表コンピーナーの方にはご協力をお願いすることがありますので, ご本人もしくは代理の方の連絡先を明確にし, 必ず連絡が取れるようにして下さい。なお, 代表コンピーナーの方以外の代理をたてる場合は, 代理の方の連絡先をプログラム委員会(pcom-ml@epsu.jp)まで, 予めお知らせ下さい。

インターナショナル・セッションについて
全ての発表を英語で行うインターナショナル・セッションを開催します。海外からの参加や国内外国人の参加を歓迎します。(一覧の印)

特別公開セッションの開催
「新しい地学教育の試み - 2」「近未来地球大予測」(仮題)ほか各学会からのアウトリーチ講演等を予定しています。

詳細は大会ホームページ, プログラムに掲載いたします。また一般向けのポスターを作成し関係機関に広く配布する予定です。ご不明な点などは, 運営機構事務局までお問合せください。

セッション開催日: 2005/5/22(日)
参加費: 無料
参加申込・お問合せ: 運営機構事務局

2005年大会開催セッション一覧

特別公開セッション:

- ・新しい地学教育の試み - 2. 学習指導要領を考える

- ・近未来地球大予測(企画中)
- ・キッチン地球科学
- ユニオンセッション:
 - ・地球惑星科学における男女共同参画
 - ・映像でみる地球惑星科学
 - 竹内 均先生追悼特別セッション -
- レギュラー・スペシャルセッション:
 - (レギュラーセッションの提案学会・グループについては, <http://www.epsu.jp/jmoo2005/2005Rsession.html> をご覧ください)

- 大記号・分類名 - - セッション名 -

- V 火山学
 - ・活動的火山
 - ・マグマシステムと噴火・堆積機構
 - ・雲仙科学掘削
 - ・火山爆発のダイナミクス: 噴火シミュレータの基礎と火山防災への展望
- K 岩石・鉱物学
 - ・深成岩とマグマ - その発生から進入固結まで -
 - ・鉱物の物理・化学
 - ・高圧X線ラジオグラフィ法の20年
- S 地震学
 - ・地震に伴う諸現象
 - ・地震発生の物理
 - ・地震活動
 - ・強震動・地震災害
 - ・地震の理論・解析法
 - ・地震計測・処理システム
 - ・地震予知
 - ・地震一般
 - ・地盤構造・地盤震動
 - ・震源過程・発震機構
 - ・地殻構造
 - ・陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化
 - ・ユーラシア大陸の形成と構造
 - ・長大活断層のセグメンテーションと強震動予測
 - ・阪神・淡路大震災から10年: 地殻内地震の強震動研究と2004年新潟県中越地震
 - ・地球内部の能動的モニタリング
 - ・次世代の大地震発生予測
 - ・日本の地震学: この10年, これからの10年
 - ・西日本の地殻活動: その地震サイクルにおける意義
 - ・歪地震動 - 巨大地震の断層運動を見る
 - ・2004年新潟県中越地震の地震テクトニクス
- H 水文・陸水・地下水学
 - ・水循環・水環境
 - ・同位体水文学 2005
 - ・都市域の地下水・環境地質
 - ・山体基盤岩地下水流動の実態解明とその水資源的評価

- ・水循環に関わる物質輸送
- W 雪氷学
 - ・コア研究が拓く地球環境変動史
- D 測地学
 - ・重力・ジオイド
 - ・測地学一般(含, 計測技術, 地球潮汐)
 - ・地殻変動
 - ・GPS
- Q 第四紀学
 - ・第四紀
 - ・沖積層研究の新展開
- C 地球化学
 - ・固体地球化学・惑星化学
 - ・地球環境変化と大気水圏の物質循環
- L 地球環境・気候変動学
 - ・古気候・古海洋変動
 - ・高緯度域における最新の古海洋研究
 - ・地球温暖化防止のためのCO₂固定とカーボンサイクル
- B 地球生命科学
 - ・生命-水-鉱物相互作用の場の実態
 - ・アーキアンパーク計画: 海底熱水系における地圏・生物圏相互作用
 - ・アストロバイオロジー: 宇宙における生命の起源・進化・分布と未来
 - ・地球のフィードバックシステム - 抽象モデルから観測まで
 - ・コールドシープ活動と現場環境中の微生物学的多様性
 - ・地球生命史
- E 地球電磁気学
 - ・太陽圏・惑星間空間
 - ・宇宙プラズマ理論・シミュレーション
 - ・電気伝導度・地殻活動電磁気学
 - ・地磁気・古地磁気
 - ・磁気圏 - 電離圏結合
 - ・宇宙天気
 - ・電離圏・熱圏
 - ・大気圏・熱圏下部
 - ・磁気圏構造とダイナミクス
 - ・赤道大気上下結合
 - ・MU レーダー 20 周年シンポジウム
極域熱圏下部オーロラ活動に伴う大気の運動
- DELTA キャンペーン -
 - ・地震関連電磁気現象と地殻活動予測の可能性
- I 地球内部科学
 - ・地球構成物質のレオロジーと物質移動
 - ・地球深部ダイナミクス: プレート・マントル・核の相互作用
 - ・地球深部スラブ
- M 地球惑星圏学
 - ・惑星大気圏・電磁圏
 - ・新しい流星電波観測
スプライトの宇宙及び地上観測
- 地球惑星科学における非線形プロセス
- T 地球惑星テクトニクス・ダイナミクス
 - ・地下温度構造・熱過程
 - ・テクトニクス
- G 地質学
 - ・地域地質と構造発達史
 - ・堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報
 - ・長期火成活動と火山発達史
 - ・放射性廃棄物の地層処分 - 地層処分における地球科学的課題の検討 -
 - ・変形岩・変成岩とテクトニクス
 - ・ガスハイドレート, メタン湧水, およびこれらと関連する海底の諸現象
- Y 防災・応用地球科学
 - ・地質ハザード・地質環境
 - ・火山工学的な災害および防災への取り組み
- P 惑星科学
 - ・惑星科学
 - ・宇宙惑星における固体物質の形成と進化
初期地球惑星誌: 太陽系星雲から生命の誕生に至るまで
 - ・火星
 - ・月から始まる地球惑星進化学
- Z その他
 - ・雷嵐活動の観測法と最近の成果
- J ジョイント
 - ・地球年代学・年代層序学
 - ・活断層と古地震
 - ・地球流体力学 地球惑星科学における「乱流」へのアプローチ
 - ・オフィオライトと海洋地殻
 - ・岩石・鉱物・資源
 - ・情報地球惑星科学
 - ・惑星地球システムの安定性と不安定性
 - ・地学教育
 - ・巨大地震発生帯の科学
 - ・海洋底地球科学
 - ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程
 - ・大学等からのボトムアップ提案による地球観測科学衛星構想
 - ・西太平洋海域の発達過程
 - ・海洋底 / 地球掘削科学 (IODP/ICDP) の成果と将来計画

§ 3 各種登録について(変更・取消他)

合同大会ではまず最初に『個人情報登録』によって, ID 番号を取得していただいております. その後で ~ の登録を必要に応じて行って下さい.

- 個人情報登録
- 参加登録(事前申込)
- 予稿集原稿投稿(講演申込)

オンラインクレジットカード支払登録
郵送先住所指定登録

§ 3.1 個人情報登録

ID番号は各種登録、照会に必要です。登録は無料ですので、大会ホームページの『個人情報登録』にてご登録を行って、ID番号を取得して下さい。

参加登録される方、予稿集原稿投稿される方、コンピーナー、共著者、座長、合同大会の情報を希望される方全員必要です。

ただし、既に登録済みで、ID番号をお持ちの方は再度行う必要はありません。転勤・卒業等で住所変更が生じた場合も、ホームページ上の「個人情報登録」にて、所属・住所変更手続きを行って下さい。

<< 個人情報登録のために必要な情報 >>

- ・氏名(漢字,カタカナ,英語) 姓と名別々に
- ・所属学会(複数選択式)
- ・所属機関名(漢字,カタカナ,英語)
- ・所属機関名略称(漢字,英語)(表示用)
- ・所属機関住所(漢字,英語)
- ・身分(学生,一般 選択式)
- ・TEL, FAX, E-mail

§ 3.2 参加登録(事前申込:4月13日12:00締切)

当日ご来場される方(発表者,座長,聴講・見学のみの方)は、「参加登録」が必要です。大会当日会場へご入場の際には、参加登録後郵送される名札をご着用していただきます。事前申込は当日申込(当日登録)より料金がお安くなっていますので、お勧めいたします。

ただし、会合のみに出られる方は参加登録の必要はありません。総合受付で会合用の名札を受け取り、ご着用をお願いします。

§ 3.3 予稿集原稿投稿(申込:2月21日12:00締切)

予稿集原稿投稿される方は、に加えて行って下さい。共著者も『個人情報登録』のID番号が必要ですのでご注意下さい。当日発表のみされる方は『参加登録』が必要です。

§ 3.4 オンラインクレジットカード支払登録

2005年大会から、予稿集原稿投稿・事前参加登録と同時にオンラインシステムによるクレジットカード(VISA, MASTER, ダイナース, JCB, AMEX)で料金をお支払いいただくことになりました。内容に従って大会ホームページより支払をお願いします。詳細は§1の「お支払方法」をご覧ください。

§ 3.5 郵送先住所指定登録

プログラムおよび予稿集CD-ROMは、事前参加登録申込者、予稿集原稿投稿者へ5月16日迄にお届けする予定です。

例年、所属機関と実際の居室が異なったり、建物が複数あったりと、郵送物が行き先不明で戻ってきたり、お届けが遅くなるケースが多く見られます。確実に郵送物がお手元に届く住所をここで、ご指定ください。転勤・卒業等で住所変更が生じた場合や、移行期間で住所が未確定な場合なども、ご自宅など確実にお届けできる住所指定を行って下さい。発送業務は、5月9日から11日を予定しています。5月6日までに指定登録をお済ませ下さい。

§ 3.6 変更・キャンセルについて
予稿集原稿投稿

2005/2/21(月) 12:00まで	変更	各自HPより行って下さい
	取消	
上記以降	変更	料金の返金はできません
	取消	

事前参加登録(申込)

2005/4/13(水) 12:00まで	変更	事務局までご連絡ください
	取消	
上記以降	変更	{24時間券 全日程券}のみ可能。事務局までご連絡ください
	取消	× 料金の返金はできません

連絡方法: Email 又は FAX

連絡先: Email:reg@epsu.jp

FAX:03-5800-6839

(ご連絡時は個人情報ID番号もお知らせ下さい。)

§ 4 運営機構からのお知らせ

§ 4.1 運営機構ホームページのご案内

運営機構のホームページを立ち上げております。運営機構のことだけでなく、2005年合同大会のお知らせ、日本学術会議の動向、地学教育委員会、各学会へのリンク、地球惑星科学関連の専攻、学科、研究所へのリンク、連絡会関連のお知らせ、等を掲載していきます。

URL <http://www.epsu.jp/>

§ 4.2 参加費改訂についてのお願い

10月12日開催の地球惑星科学関連学会連絡会において、より多くの学生(大学院生)の参加を促進することを目的として、2005年大会から学生の参加費を引き下げることが決定されました。その為、財政の現状を考慮し、一般

合同大会のお知らせ

参加者の料金を若干引き上げさせていただく必要が生じております。皆様にはどうかご理解・ご協力いただきますようお願い致します。

また、健全な財政を維持するために、以下の事をお願い致します。

(1)当日お申込の方は、まず総合受付にお立ち寄りになり、精算を済ませた上で名札を受け取って参加してください。

(2)名札を着用せずに会場に入られた方には理由をお伺いします。

§ 4.3 合同大会当日の受付時間について

合同大会期間中の受け付け時間 場所は以下の通りに開設する予定です。

当日総合受付

5/22(日)～26(木)AM 8:30～PM 5:00
(予定)

1F 受付カウンター

(参加登録・各種案内)

§ 4.4 団体展示・書籍出版展示

合同大会では、2F中央ロビー及びホワイトにて、研究団体・企業・出版社などによる研究紹介・書籍・機器などの展示ブースを設けております。21世紀COEプログラム拠点大学の展示もございます。様々な形で自由にご利用頂き、有効な情報交換の場としてご活用ください。ご利用希望の方は、事務局へご連絡下さい。詳細(申し込み要綱)をご案内します。尚、お申し込みは2月末日(最終締切)です。スペースに限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。詳細は、大会ホームページの「各種おしらせ」をご覧ください。

§ 4.5 合同大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは、プログラム日程決定後下記の通り、先着順で受付しますのでお早めにお申込下さい。

会場内の部屋数に限りがございますので、満室になった場合はできる限り会場周辺の会議施設をご紹介させていただきますが、やむを得ずご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

尚、部屋使用料金、お弁当等の詳細はホームページの「会合のお申込」をご覧ください(学会の総会開催につきましては2/18(金)までに事務局までお知らせ下さい)

お申し込み受付

2005/3/3(木)～5/10(月)

お申し込み先

運営機構総務局 2005 年会合係

(E-mail: meet@epsu.jp)

お申し込み内容

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 利用人数
- 4) 希望する時間(開始・終了時刻)
- 5) 食事の希望有無(有の場合は弁当数)

§ 4.6 保育希望の方へ

合同大会では、保育をご希望されます方へ、会場に隣接する千葉市認定保育施設をご紹介します。保育室の利用につきましては合同大気運営機構財務局より金銭的補助をいたしません。詳しくは大会HP「各種お知らせ」にてご確認ください。

§ 4.7 2005年合同大会運営機構組織構成と連絡先

大会委員長 渡辺秀文(東大・地震研)
<< 運営機構 >>

jm-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

代表 浜野洋三(東大・理・地惑)

財務局

fc-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

中村正人(2005年担当責任者 宇宙航空研究開発機構)

高橋幸弘(2005年担当副責任者 東北大・理・地物)

木村 学(東大・理・地惑)

雨宮秀雄(国土地理院)

佐倉保夫(千葉大・理・地球)

綱川秀夫(東工大・理工・地惑)

渡辺誠一郎(名大・理・地惑)

企画局

plan-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

高橋幸弘(2005年担当責任者 東北大・理・地物)

大村善治(2005年担当副責任者 京大・生存圏研究所)

田近英一(2005年担当副責任者 東大・理・地惑)

浦辺徹郎(東大・理・地惑)

大谷栄治(東北大・理・地球物質)

木村 学(東大・理・地惑)

末広 潔(海洋研究開発機構)

丸山茂徳(東工大・理工・地惑)

安原正也(産業技術総合研究所)

情報局

it-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

綿田辰吾(2005年担当責任者 東大・地震研)

坪井誠二(2005年担当副責任者 海洋研究開発機構)

竹内 希(東大・地震研)

宮本英昭(東大・工・地球システム)

田近英一(東大・理・地惑)

大村善治(京大・生存圏研究所)
 倉本 圭(北大・理・地惑)
 武井康子(東大・地震研)
 林 祥介(北大・理・地惑)
 古屋正人(東大・地震研)
 塚本尚義(東工大・地惑)

総務局

ga-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

岩上直幹(2005年担当責任者 東大・理・地惑)

石橋純一郎(九大・理・地惑)

プログラム局

pro-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

篠原 育(2005年担当責任者 宇宙航空研究開発機構)

吉田尚弘(東工大・総合理工)

原 辰彦(建築研)

北 和之(茨城大)

阿部 豊(東大・理・地惑)

小野高幸(東北大・理)

岩森 光(東大・理・地惑)

安藤寿男(茨城大)

中嶋 悟(東工大・理工・理学研究流動機構)

近藤 忠(東北大・理)

渡辺誠一郎(名大・理・地惑)

藤本光一郎(東京学芸大)・渡辺 寧(産総研)

地球電磁気・地球惑星圏学会

高橋幸弘(東北大)・石川尚人(京大)

日本火山学会

大野希一(日大)・下司信夫(産総研)

日本岩石鋳物鋳床学会

榎並正樹(名古屋大)・廣井美邦(千葉大)

日本鋳物学会

塚本尚義(東工大)・三河内岳(東大)

日本地震学会

青木 元(仙台管区气象台)・岡元太郎(東工大)

日本測地学会

加藤照之(東大・地震研)・大坪俊通(情報通信研究機構)

日本第四紀学会

奥村晃史(広島大)・宮内崇裕(千葉大)

日本地下水学会

丸井敦尚(産総研)・宮越昭暢(産総研)

日本地球化学会

鈴木勝彦(海洋研究開発機構)・角皆 潤(北大)・下田 玄(産総研)

日本地質学会

七山 太(産総研)・久田健一郎(筑波大)

日本水文科学会

安原正也(産総研)・鈴木啓助(信州大)

日本惑星科学会

山本 聡(東大)・高 正嗣(北大)

(以上学会五十音順敬称略)

合同大会はボランティアで成り立っています。皆様の積極的参加をお願いします

** 合同大会懇親会の開催について **

前回に引き続きまして、2005年合同大会におきましても、懇親会を企画しております。どうぞ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。詳しい情報は決まり次第、一斉メール、またHP上で公開いたします。

<< 共催学会選出プログラム委員 正・副 >>

pcom-ml@epsu.jp

プログラム委員長

篠原 育(宇宙航空研究開発機構)

資源地質学会

日本第四紀学会・千葉県立中央博物館共催シンポジウム 「ナウマンゾウがいた頃」- 再度のご案内 -

第四紀通信第11巻第6号(2004年12月1日発行)でお知らせしましたシンポジウムについて、再度ご案内します。日本第四紀学会では、これまで大会以外の期間に行ってきたシンポジウムを「ミニシンポジウム」と呼んできましたが、今後、単にシンポジウムと呼ぶことに致しました。今回は千葉県立中央博物館と共催で「ナウマンゾウがいた頃」というテーマで、このようなシンポジウムを行います。

このシンポジウムでは、千葉県袖ヶ浦市吉野田の約20万年前の地層(下総層群清川層)から発見されたナウマンゾウをはじめ総数1000点の化石とそれを含む地層から、この時代の古生態や古環境を復元します。

日時：2005年2月20日(日) 10:00 - 15:00

会場：千葉県立中央博物館講堂

会場へのアクセスは(1)JR千葉駅東口7番乗場から京成バス「大学病院」「大学病院・南矢作」行きで約15分「中央博物館」下車徒歩7分。(2)JR千葉駅東口2番乗場千葉中央バス「中央博物館」行きで約20分。終点の「博物館・文化ホール」下車徒歩1分(本数が少ない)。(3)JR蘇我駅東口2番乗場から小湊鉄道バス・千葉中央バス「大学病院」行きで約15分。「中央博物館」下車徒歩7分。(4)京成千葉寺駅から徒歩20分。(5)京葉道路松が丘ICから車で約5分

参加費：無料，先着200名

プログラム

- 10:00 - 10:05 シンポジウム主旨説明
- 10:05 - 10:30 兼子尚知(産業技術総合研究所地質調査総合センター): 脊椎動物化石層の発掘 - 袖ヶ浦市吉野田にて -
- 10:30 - 10:50 中里裕臣(農業工学研究所)・佐藤弘幸(静岡聖光学院): 下総層群清川層の年代と構造運動
- 10:50 - 11:15 岡崎浩子(千葉県立中央博物館): 河川の氾濫原の古環境と化石群
- 11:15 - 11:35 特別講演 池田 宏(筑波大学): 海水準変動による地形変化
- 11:35 - 12:00 平山 廉(早稲田大学): 下総層群清川層から発見された化石カメ類について
- 12:00 - 13:00 昼食
- 13:00 - 13:20 百原 新(千葉大学)・奥田昌明・斎木健一(千葉県立中央博物館): 下総層群清川層から産出する植物化石
- 13:20 - 13:40 伊左治鎮司(千葉県立中央博物館)・鵜飼宏明(熊本県御所浦白亜紀資料館): 貝化石からさぐる淡水の環境
- 13:40 - 14:05 高くわ祐司(群馬県立自然史博物館): 下総層群清川層から産出したニホンジカについて
- 14:05 - 14:30 樽 創(神奈川県立生命の星・地球博物館): 袖ヶ浦市吉野田産のナウマンゾウ
- 14:30 - 15:00 総合討論「ナウマンゾウがいた頃の自然環境と生物」

なお、シンポジウム終了後、日本第四紀学会評議員会を同じ博物館内で行います。

また袖ヶ浦市吉野田の化石は、同博物館の企画展「おもしろ研究紹介」で展示されることになっていますので、当日会場で見ることができます。

このシンポジウムに関する問い合わせは、下記にお願いします。

日本第四紀学会企画担当幹事：河村善也(〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学理科教育講座，電話：0566-26-2374，eメール：yskawamr@aecc.aichi-edu.ac.jp)

千葉県立中央博物館：岡崎浩子(〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 電話：043-265-3111，eメール：kohiroko@chiba-muse.or.jp <http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>)

神奈川県立生命の星・地球博物館 企画展・講演会のご案内

当館では12月18日から2月27日まで企画展「+2の世界～縄文時代に見る地球温暖化」を開催中です。

地球温暖化というテーマのもと、過去の温暖化とくに「縄文海進」にスポットをあて展示を構成しました。幸いに、当館には沖積層からの貝に関するデータが松島義章先生により蓄積されており、今回の展示でみなさまにその一部をご披露することができました。

企画展の紹介は博物館のページにあります。

<http://nh.kanagawa-museum.jp/kikaku/ondanka/index.html>

<http://nh.kanagawa-museum.jp/event/plus2/index.html>

講演会『温暖化に伴う環境の変遷』

「永久凍土の融解と地球温暖化」：福田正己氏（北海道大学低温科学研究所）

「白化するサンゴ礁と縄文の海 - サンゴ礁からみる環境変遷と地球温暖化 - 」：茅根 創氏（東京大学大学院理学系研究科）

「地球温暖化による海面上昇とアジアの三角州」：斎藤文紀氏（独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門）

日時：2005年2月11日（金・祝）13：00～16：20

会場：神奈川県立生命の星・地球博物館ミュージアム・シアター

神奈川県小田原市入生田499（箱根登山鉄道入生田駅下車3分）

定員：300人 / 当日受付 / 参加費無料

講演会の紹介は博物館のページにあります。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html>

那須孝悌先生のご逝去を悼む

大阪市立自然史博物館館長的那須孝悌先生が、昨年11月25日にご逝去されました。享年64歳でした。

那須先生は長野県のご出身で、信州大学文理学部で地質学と第四紀学を、京都大学大学院理学研究科で古植物学と古環境学を学ばれました。その後、日本学術振興会奨励研究員を経て1973年に大阪市立自然科学博物館(現在の大阪市立自然史博物館)に奉職されました。1998年からは館長職に就かれ、博物館の充実のために力を尽くされてきました。その一方で、本会の評議員(1983 - '84, '87 - '97年)や編集委員(1993 - '97年)を務め、学会の運営に尽力されました。

ご研究の中心は、植物化石の証拠から第四紀の環境変遷史を解明することで、ウルム氷期最盛期の古植生図(1980年)に代表される功績を残されました。また、長野県野尻湖で行なわれる野尻湖発掘には第1回から参加され、発掘調査団の研究グループの一員として、最終氷期以降の古植生変遷史の研究に臨んでこられました。

那須先生の第四紀古環境学に対する真摯な姿勢は、「認識のレベルを上げたいなら、同定のオーダーを下げなければならない」という言葉に、その実践は日本産タデ科の花粉形態に関する論文によく表されています。また、シダ植物の孢子形態の研究にも精力的に取り組んでこられ、1986年に『日本産シダ植物の孢子形態』を出版されました。この本には研究成果の一部しか掲載できておらず、いずれ続編を執筆するつもりであるとお聞きしていました。シダ植物の孢子形態の研究は、「泥沼」だといって多くの研究者から避けられてきた課題であるだけに、未完のままであることは残念でなりません。

また、生涯教育に携わる博物館学芸員として市民に愛情を持って接し、「名物館長」として数多くの市民に愛されてきたことは言うに及びません。あまりにも早い那須先生の旅立ちに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(本郷美佐緒・野尻湖花粉グループ)

日本第四紀学会事務局移転のお知らせ

本学会が業務を委託しておりました(財)日本学会事務センターが2004年8月に破産いたしました。皆様にはご心配・ご迷惑をおかけいたしました。このたび新たな業務委託先を選定し、下記の通り事務局を移転いたしました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。(幹事会)

(日本第四紀学会 新連絡先)

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519 洛陽ビル3階 日本第四紀学会事務局
TEL: 03-5291-6231/FAX: 03-5291-2176 E-mail: daiyonki@shunkosha.com

新事務局・幹事会よりお願い

1. 会費は改めて振込票をお送りするまで振込はお控えください(これまでに郵便振替口座に振り込まれた分は登録済みです)。
2. 入会希望・退会・住所変更などの諸連絡は事務局へお願いします。
3. 投稿原稿は当分の間、従来通り編集書記あてお送りください。
〒252-1123 綾瀬市早川1345-40 日本第四紀学会編集書記 綿引裕子
4. バックナンバーの販売等は事務局へお問い合わせください。
5. その他のお問い合わせも事務局へお願いいたします。

日本学会事務センター債権者集会メモ

破産者（財）日本学会事務センター 第1回債権者集会

日時および会場：2004年11月29日 15:00～16:30、東京地方裁判所債権者集会場

出席者：裁判長、書記官、陪席裁判官、破産管財人（竹村弁護士）、常置代理人（弁護士数名）、旧センター理事数名、各学会代表者（約300名）

1)全体説明（竹村管財人）

経緯説明（2004年8月17日に破産宣告） 精算業務の状況

2)破産原因の調査結果（常置代理人）

直接は預かり金返還請求に応じきれず破産、しかしH3年に駒込ビルの建設（代金11億円、銀行からの借り入れは10億円、差額1億円が不足）以来赤字が拡大した（毎年の返済額4000万円*13年で約5億円、ユーティリティセンター貸し付けと大阪・本郷事務所に関する費用各2.9億円）学会業務はほぼ収支プラマイゼロだったので赤字が次第に累積した。

3)破産者の財産目録説明（常置代理人）

破産時の資産は不動産売却を含め約7.7億円、負債額は預かり金11億円、優先債権として従業員給与約3億円、届け出債権額は計約21億円。

4)学会による預かり金返還請求に対する否認権の行使はできなかったことについて（常置代理人）

7月中に学会からの預かり金返還で約6億円支出されたが、この中には3月決算あるいは会費支払い締め切りで5～6月送金という契約・慣習上の分があるが、このほか職員がうすうす資金不足を感じて多額の預かり金がある学会に返金したのもあった。しかし否認権行使の対象と認定するのは困難。

5)財団理事らの責任、損害賠償請求について（常置代理人）

各理事に面接して、損害賠償として学会およびセンターに支払いたいという金額が紹介された（計5000万円位か）。各学会に対する分配については各学会と各理事が個別に協議すべきだが（実際は無理）和解案等あれば管財人は協力したい。刑事告訴については検討中。

6)もと理事らの謝罪

光岡理事長、寺尾専務理事、今野理事3名が謝罪した。

7)質疑

損害賠償金分配をどうするか（地形学連合）：賠償額は「提案」であり、学会側の意思統一が必要。

会計監査の責任はあるか（国際法学会）：公認会計士のアドバイスはあったが改められなかった。

7月の説明会で「文科省による支援がある」ときいたが、文科省に確認したところ「そんな事実はない」といわれた、また文科省は事前に認識していたのではないか（サンゴ礁学会）：（理事）文科省の「何とかしなければならない」との言葉を希望的に受け取った。文科省からは「しかるべき学会にはきちんと説明せよ」との指示があった。（管財人）理事や評議員がいる学会に優先的に返金したとはいえない。

（管財人より）損害賠償金の分配については、学会全体の意思統一をして来年早々に統一見解を知らせてほしい。そうでないと理事に金員を返さざるを得ない。全学会の統一見解でないといけなどうかは理事らの判断となる。次回の債権者集会は2005年3月7日。

庶務幹事久保純子記（債権者集会出席時の久保のメモに日本地形学連合倉茂氏による記録も参照した）

「日本学会事務センター破産被害学会連絡協議会」について

日本学会事務センターの破産により、約300の学会が預かり金損失等の損害をうけたため、日本地形学連合等の学会が中心となり2004年11月27日に標記協議会を発足させ、当日は55学会70名が参加しました(当日は日本第四紀学会は参加せず)。本協議会は学会事務センター破産の経緯を明らかにし、その責任の所在を追及するための法的措置を検討することを目的として結成されました。

被害学会連絡協議会の幹事は以下の方です(2004年11月27日現在、順不同): 小倉紀雄(日本陸水学会) 廣島彰彦(日本コンピューターサイエンス学会) 荒木孝二(日本レーザー歯学会) 茅根 創(日本サンゴ礁学会) 木村彰方(日本組織適合性学会) 多賀谷 昭(日本人類学会) 徳永英二・中山大地・倉茂好匡(日本地形学連合) 伴 修平(日本陸水学会) 武田一郎(日本地形学連合)

一方、11月29日の第1回債権者集会席上で、旧理事長らより損害賠償として計5000万円程度の支払い申し出があり、破産管財人からは学会の大多数を組織するような団体を結成し、旧理事たちと学会側への資金返済等について協議を開始してほしいとの要請がありました。

このため、「被害学会連絡協議会」より多くの関係学会に加入の呼びかけがあり、日本第四紀学会も協議会に加入することを幹事会で決めました。ただし、法的責任追及には消極的な学会もあるので、協議会参加は必ずしも法的責任追及を条件とはしていません。

さらに、12月末に協議会より連絡があり、理事側との交渉には次のような体制で臨みたいとのことでした。

1)「連絡協議会」の活動と目的を同一とせず、和解成立への活動だけを目的とした「和解交渉委員会」を発足させる。

2)和解交渉にあたっては、和解交渉委員会と元理事長らの代理人との協議によって決定する(すなわち、交渉については和解交渉委員会に一任する)。

3)ただし、どのような和解金配分を望むのか、学会側の意向確認を行なう。

幹事会では引き続き情報収集と対応の協議をして会員の皆様にお知らせいたします。

(2005年1月8日現在、庶務幹事)

第19期・第6回地質科学総合研究連絡委員会第四紀学専門委員会議事録

日時:2004年11月28日(金) 12:00~13:00

会場:明治大学アカデミーコモン 309G室

出席:町田 洋, 岩田修二, 奥村晃史, 川辺孝幸, 河村善也, 齊藤文紀, 竹村恵二

欠席:小野 昭, 多田隆治, 松浦秀治, 三田村宗樹

前回(9月3日)の議事録の確認・訂正をおこなった。

1.報告事項 日本学術会議総会・部会などに関連する報告

1-1.2005年10月から発足する日本学術会議の新会員選出のため地質・地球科学関係では、久城育夫氏が選考委員会の一員となり、その下に3人の専門

委員が選ばれた(報告者町田 洋)。一方、地球惑星科学連合準備会では会員候補者について、各学協会から5人ずつ推薦を求め、それをもとに選定を進めており、12月4日にその会合がもたれる(奥村委員の補足説明)。

1-2.2007年に開催が予定される太平洋学術会議については、日本学術会議主催の申請を11月末までに行なった(報告者町田 洋)。

1-3.時限付科学研究費について、第4部からは地球システム変動に関するものが採択された(平成18年から始まる)。この計画は日本主導で、深海掘削を用いて、過去2億年間の地球システム変動の原理を解明することを目標とする(報告者町田 洋)。

1-4.平成17年度国際会議派遣について希望者は早急に町田委員まで申し出ること。希望がなければ町田委員が申請する(報告者町田 洋)。

2. 審議事項

2-1. シンポジウムの成果報告について

本で行っているシンポジウム「私たちの明日を考える：地球史が語る近未来の環境」の内容は、東京大学出版会から一般向けの単行本にすることで話が進んでいる。目次案を配布した。

2-2. シンポジウム終了後の第19期の活動方針について

今期中に学術会議から社会に対して発信する、第四紀学の意義と重要性を訴える報告書(学術会議の対外報告書)を作成することについて、メリットとデメリットとを検討した。

2004年度第3回幹事会議事録

日時：2004年12月11日(土)14:00～17:30

会場：早稲田大学教育学部16-616室

出席者：熊井久雄(会長)、真野勝友(副会長)、山崎晴雄、松浦秀治、斎藤文紀、河村善也、町田洋(研連)、中川庸幸(春恒社)、久保純子(記録)
欠席者：小野 昭、池原 研、奥村晃史、兵頭政幸

議 事

.(株)春恒社への業務委託の件

10月31日の幹事会で、幹事会として(株)春恒社を委託先に選定することを決め、11月下旬の評議員投票の結果、28票中賛成28票で承認されたため委託を決定した。

(株)春恒社より経営状況に関する資料として決算書が提示され回覧したが、特に問題は認められなかった。

契約内容(見積書、契約書)と今後の業務引き継ぎについて(株)春恒社と確認した。

今後の連絡先表記は以下の通り。

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519

洛陽ビル3階 日本第四紀学会事務局

TEL:03-5291-6231/FAX:03-5291-2176

E-mail:daiyonki@shunkosha.com

文部科学省、学術会議、郵便局等へ連絡先変更届を送るとともに、メーリングリスト、ホームページによる周知をおこなうこととした。

. 報告事項

1. 庶務

前回10/31幹事会議事録は第四紀通信に掲載した。

学会事務センター破産債権者集会(11/29東京地方裁判所)報告：管財人による破産に至った原因調査(バブル期のビル建設とそれ以降の返済に学会預かり金が流用され、返還要求に応じられなくなったため)、債権の状況(各学会への返還はできない)、刑事告訴は検討中だが元理事らによる謝罪と賠償金支払い申し出があったこと、賠償金(約5000万円)の用途は被害学会が何らかの意思統一をしないと話

が進まないことが管財人より説明された。

「学会事務センター破産被害学会連絡協議会」の活動状況報告(参加は審議事項)

学術会議会員候補者に関する評議員投票結果：学会より情報提供する人数は9名で、女性、若手、地方在住者等の内訳が指定されている。評議員による投票結果が報告された(選出は審議事項)。

会員業務(入退会受付)をおこなった。

会誌発送(43巻6号)のための手続きをおこない、12月上旬に発送した。

団体会員への請求書発送、定期購読者への請求はすぐに(株)春恒社よりおこなう。

2. 会計

学会口座からの支出については今のところ特に問題はない。前年度の未払い費用も含め、振込手続きを済ませた。会計幹事用の小口現金口座は閉鎖する。(株)春恒社委託にあたり、会計幹事による決済は従来通りおこなう。

3. 編集(庶務幹事代読)

編集状況は以下の通り。

第43巻6号(刊行；原著3,短報2,書評3)

第44巻1号(編集中；原著3,短報1,総説1,書評2の予定)

手持ち原稿数 25編(原著21,短報3,書評1)

今年の投稿数 50編(原著30,短報6,総説1,書評12) 昨年の同時期より6編多い

このうち受理 23編(原著8,短報3,総説1,書評11), 取り下げ・掲載不可5編

山形大会特集号 第44巻3号を予定、ただし現時点での原稿の集まり具合は悪い(当初の原稿締め切り:11/30) 特集号編集委員会の設置については審議事項)

第43巻5号のPDFファイルを印刷所よりサンプルとして入手した。

4. 行事

本年の山形大会の報告を評議員会までに依頼する。2005年島根大会に関する連絡を取った。日程は8月26～29日(巡検含む)の予定。2006年の50周年記念大会(東京)は、8月下旬の国際堆積学会(福岡)と調整したい。

5. 広報(庶務幹事代読)

第四紀通信11-6を発行した。

学会ホームページおよびメーリングリストにて広報活動を行った。

6. 渉外(庶務幹事代読、町田会員より補足経過報告)

地球惑星科学連合準備会推薦の学術会議会員候補者として、12月4日に各学会から5名ずつの推薦を受け付けた上で審議した。選考は現在の会員配分ではなくて、地球惑星科学の分野ごとでかつ、準備会に加盟している学会の研究分野ごとに一人を選ぶ形で行われた。第四紀学は『層序・古生物、環境科学・第四紀学』から一名で、地質学会・古生物学会・第四紀学会で相談した結果、統一候補を選出した。第四紀学会が推薦した候補は、地球惑星科学連合準備会からの推薦を受けることはできなかった。

地球惑星連合準備会は学術会議に登録されていない団体なので、各学会の情報提供に統一候補2～3名を含めることを求められている。

同日行われた自然史学会連合では、無記名投票による選考が行われ、植物分類学会の2名が、自然史学会連合から推薦されることになった。自然史学会連合は連合として学術会議に登録されている団体のため、2名の推薦を依頼されている。

7. 企画

2005年2月20日のシンポジウム(千葉県立中央博と共催)の案内(第2報)を作成した。

講習会については大阪市立自然史博物館で開くこととし、同館の樽野氏と打ち合わせ中。

50周年事業としての博物館特別展は小規模な展示を数か所で分けておこなう方針とした。

8. その他

・学術会議研連(町田)

11月28日のシンポジウム(明治大学)は9名の報告があり盛会だった。シンポジウムを元に出版物刊行を計画している。研連から学会へ共催のお礼を申しあげる。

学術会議次期会員(計210名)選出については方針が変わりカオス的な状況である。第4部30名に関しては、物理・化学分野がまとまっているのに対し、地球科学分野もまとまる必要がある。

IYPE(国際地球惑星年)については国連での提案が延期となった。

・旧石器遺跡捏造事件関連資料調査報告(小野委員より文書で提出)

日本第四紀学会機関誌、予稿集、通信、単行本を対象に関連度A~Cに区分したリストを作成した。評議員会での報告を経て公表の予定。

・50周年事業実行委員会(熊井)

CD作成委員会で原案を作成中である。

・審議事項

1. 庶務

引用許可、図書等の受け入れ：なし。

雑誌電子化の件：J-STAGEへの参加をめざし、会誌のPDF化の準備をする(編集委員会の項参照)。

学術会議の会員候補者の件は、評議員選挙による上位者(女性、若手、地方在住者数などの要件を満たす)に地球惑星科学連合との共通候補者を加え、候補者カードの作成を幹事長より依頼することとした。

学会事務センター破産被害者協議会参加(参加費3000円)の件を承認した。

2. 会計

(株)春恒社より学会口座を信託銀行(店舗は大手町のみ)から最寄りの銀行に移す希望があったので、信託銀行から春恒社への出張が可能かどうか確認することとした。

銀行口座の住所変更を届け出ることとした。

幹事会出席者の旅費支出の件を承認した。

3. 編集

「第四紀研究」発行部数は現在2100部であるが、会員数の漸減、保管場所の問題、残部の将来における処理経費を考え、第44巻から2000部に変更することが提案、承認された。

山形大会シンポジウム特集号編集委員会の設置が提案、承認された。委員は陶野郁雄・山野井徹・八

木浩司・川邊孝幸(以上山形大学) 小野 昭・池原 研(編集幹事) 綿引裕子(編集書記)とする。

印刷所から第43巻5号のPDFファイル(印刷用)をサンプルとして入手した。学会経費の負担を減らすため、PDFファイルを著者に送付する代わりに、現在行っている学会負担分の別刷作成(50部)を廃止することが提案された。継続的なPDFファイルの入手については次号より実施することとし、PDFファイルの配付ならびに公表に関する方法は引き続き編集委員会で審議することとした。

4. 行事

なし

5. 広報

なし

6. 渉外

学術会議会員候補者の地球惑星科学連合と共通の候補を加えることとした。

7. 企画

2月のシンポジウム経費として、千葉県立中央博物館の広報印刷費不足分(45000円)を支出することを承認した。

8. その他

・50周年大会会場は東京地区の予定だが、公共施設等引き続き検討することとした。記念事業としてバックナンバーのPDF化をおこなうことが提案された。

・学会倫理憲章策定委員会に幹事会から2名参加することとした。

次回幹事会は2005年1月29日(土)14:00~、早稲田大学にて開催の予定。

以上

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。
第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り，偶数月1日刊行予定としていますが，情報の速報性ということから，版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 電話 078-803-5734 Fax 078-803-5757
広報委員：松下まり子・後藤秀昭 編集書記：岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr>から第四紀通信バックナンバーのPDF
ファイルを閲覧できます。